



ふたはの桂

京都府大広報 **No.180** | 2017.10

KYOTO PREFECTURAL UNIVERSITY

2019年度 設置構想中
文学部・和食文化学科
(仮称)



(C)京料理萬重



特集1 和食文化の高等教育機関設立に向けて — 2

特集2 京都府立京都学・歴彩館グランドオープン — 4

CONTENTS

地域連携・地域貢献 — 5 地域連携・地域貢献 — 6 公開講座・生涯学習 — 7 国際交流 — 8
各学部・研究科の取り組み 文学部 — 9 公共政策学部 — 9 生命環境科学研究科 — 10
受賞情報 — 11 ニューフェース — 12 イベント情報 — 12

特集1

和食文化の高等教育機関設立に向けて

2019年4月 京都府立大学文学部 和食文化学科（仮称）を開設します

平成25年（2013年）に「和食：日本人の伝統的な食文化」がユネスコ無形文化遺産に登録された事を受け、本学は平成26年から和食文化の保護・継承を担う人材を育成するための高等教育機関設立に向け活動を開始しました。

現在、2019年4月に文学部の新学科として和食文化学科（仮称）を開設するべく準備を進めています。



和食文化学科（仮称）開設の意義

世界遺産登録以降、世界的に「和食ブーム」が拡がると同時に「文化としての和食」を学ぶ機運が国内外で高まっています。特に、業として料理・調理に携わる人々や食品産業界、飲食料飲関連のサービス業界等から「和食文化」をもっと体系的に学びたいという声が大学にも寄せられるようになりました。他大学もこのような需要に応える形で平成27年に龍谷大学が農学部（食糧農業システム学科、食品栄養学科他）を開設、平成30年には立命館大学が食マネジメント学部（仮称）を開設し主に経営学領域で教育・研究を開始する予定です。

そのような状況の下、本学が開設する「和食文化学科（仮称）」は「文化」に焦点をあて、「わが国の伝統文化の中心地・京都」に根差した歴史ある大学として和食の文化的特質を極める教育・研究拠点を目指します。

新学科の概要

有識者を交えた検討会議を重ねた結果、新学科は文化を中心軸として「和食史学」「食文化学」「和食科学」「食経営学」など、より幅広い領域から「和食文化」を探求することとし文学部第4の学科として開設する方向で準備を進めています。

なお、現在予定している新学科の概要は以下のとおりです。（以下に記載の概要は構想段階のものであり、文部科学省、京都府、京都府公立大学法人本部等との協議調整で変更することがあります。）

「和食文化学科」概要（予定）

学部学科名：文学部 和食文化学科（Department of Japanese Diet Culture）（仮称）

学位名称：学士（和食文化学）（Bachelor of Japanese Diet Culture）（仮称）

入学定員：30名

開設年度：2019年度

開設場所：下鴨キャンパス（京都市左京区）

現代社会において、産業経済の発展に関わる実学だけでなく「文化力」によって対象の付加価値やブランドを高めるスキル（能力・技能）が求められています。これはわが国における地方創生にも大きく貢献するもので、特に「食」に関わるコンテンツは人々の関心も高く、これからの地域活性化に不可欠な要素となるでしょう。

■和食文化学科での学び

新学科では、右図のとおり和食文化学分野（和食史学・和食文芸、食人類学）を中心に、食科学、食経営学などの関連分野を学びます。生きた知識・現場での知見を重視した演習・実習を特長としており、例えば和食の重要な食材のひとつ「京野菜」についてその歴史や特質を座学で学ぶほか、生産農家や料理人など第一線で活躍する方を講師に迎え農産物の育て方や調理法などの聞き取りも行います。

また、和食文化を取り巻く重要な要素であるしつらえやおもてなしの心についても、下京区の重要文化財杉本家住宅で行う実習や京都調理師専門学校との御協力のもと行われる実習で専門家から御指導いただく他、上記学問で得た知見を国内外に発信するコミュニケーションスキルや史料読解能力を身につけるカリキュラムも予定しています。

加えて、平成29年度は試行的に業界社会人に特化したより深い専門知識を学べる社会人教育コースを開設し、外国人観光客対象の通訳ガイドや若手料理人などの参加を頂きました。



■卒業後のイメージ

無形文化遺産「和食：日本人の伝統的な食文化」の保護・継承及び発展に寄与する人材としては、和食史学・食文化学の知識を活かし商品開発や事業の企画立案に携わるほか、和食関連産業、伝統産業の新ビジネスの担い手、アグリツーリズムの企画開発など可能性は多岐にわたります。

文化庁の京都移転により【食文化】を中心とした生活文化など複合領域での文化芸術振興策が国策として推進される中、京都府、文化庁及び全国各地の豊かな食文化とのネットワークにより「食文化による地域創生」、「食文化による関連産業発展」を牽引する人材を育成します。



■和食文化学の研究

新学科の開設と平行し、前例のない「和食文化学」の研究の場として「和食文化学会（仮称）」の設立を目指しています。平成29年2月には準備団体として「和食文化の大学コンソーシアム」を設立するとともに、3つの研究会を継続運営してまいりました。

その成果のひとつとして、平成29年4月に「京料理」形成過程に関する歴史的考察」研究会（研究代表者 上田純一特任教授）メンバーによる書籍『京料理の文化史』が刊行されました。初心者にもわかりやすく書かれた「京料理」についての専門書で、当センターが提供する科目のテキストとしても活用しています。



■今後に向けて

来年度はいよいよ文部科学省への届出、第1期生の募集など、新学科開設に向け最終の準備段階に入ります。研究活動についても学会開設を踏まえ本格的な活動を開始します。

引き続き、皆様のますますの御支援、御協力をよろしくお願いたします。

特集2

京都府立京都学・歴彩館グランドオープン

京都北山の新たな文化・学習交流拠点として、平成28年12月から1階交流フロアの展示室を中心に一部オープンしていた「京都府立京都学・歴彩館」が、平成29年4月にグランドオープンし、2階探求フロア（図書閲覧フロア）や1階学習室の利用が可能となりました。同時に、京都府立大学附属図書館も同館に移転し、リニューアル・オープンしました。また、今後、京都府立大学文学部の研究室、実習室、演習室等が3・4階フロアに移転する予定です。

■グランドオープン記念事業の開催

平成29年4月27日には、京都府立京都学・歴彩館、京都府立大学及び京都府立医科大学主催により、グランドオープン記念事業が開催されました。

シンポジウム『京都の文化－京都学・歴彩館からの発信－』

◆基調講演「歴史の裏話～史料の保存・公開とその意義～」

公益財団法人永青文庫理事長 細川 護熙 氏

◆パネルディスカッション

パネリスト：国立国会図書館関西館館長 片山 信子 氏、平等院住職 神居 文彰 氏

元ロンドン大学アジア・アフリカ研究学院日本研究センター長 シュテファン・カイザー 氏

コーディネーター：金田 章裕 京都学・歴彩館館長



上記記念事業のひとつとして、同館に京都府立大学の紹介（PR）コーナーを設け、パネルやポスター等による教育・研究や地域貢献活動等の展示やビデオ上映、本学教員等によるポケットセミナーを行いました。ポケットセミナーには、延べ300名を超える方に御参加いただきました。

【ポケットセミナー】

| | 内 容 | 講 師 | |
|---|--|-----------|-------|
| ① | ACTR「漆の科学・文化研究拠点化事業－京都の漆科学と漆文化の世界発信－」の活動報告 | 生命環境科学研究科 | 石崎 陽子 |
| ② | 府大発 植物の形を変える昆虫の超能力の謎を解く | 生命環境科学研究科 | 佐藤 雅彦 |
| ③ | 宇治川周辺における過去100年間の植生景観の変遷 | 生命環境科学研究科 | 高原 光 |
| ④ | 京都府立植物園と京都府大の連携活動について | 生命環境科学研究科 | 椎名 隆 |
| ⑤ | 自殺リスク低減にむけたネットバトル技術活用の可能性 | 生命環境科学研究科 | 吉富 康成 |
| ⑥ | 地域をひらく ～私の出会った地域・ステキな人たち～ | 学 長 | 築山 崇 |
| ⑦ | 「丹後の海」の歴史と文化 | 文学部 | 藤本 仁文 |
| ⑧ | 『さっさよやっさ』を探して－宮津新浜の芸能文化と社会・人・まち－ | 生命環境科学研究科 | 松田 法子 |
| ⑨ | 健康に暮らすための栄養管理 | 生命環境科学研究科 | 桑波田雅士 |
| ⑩ | しなやかに、災害を受け流す－住民と大学が連携した防災まちづくり－ | 生命環境科学研究科 | 三好 岩生 |
| ⑪ | 土壌はなぜ放射性セシウムを固定するの？ | 生命環境科学研究科 | 矢内 純太 |
| ⑫ | 木が木でなくなる話－燃えない木、腐らない木、などなど－ | 生命環境科学研究科 | 伊藤 貴文 |
| ⑬ | 古都・京都の森林景観を守る | 副学長 | 田中 和博 |



教育・研究成果等の展示



ポケットセミナー

■京都府立大学附属図書館のリニューアルオープン

京都府立大学附属図書館は、京都府立京都学・歴彩館の2階及び地下1階部分に移転しました。附属図書館には、約20万冊の専門図書・教養図書等や、約2,000種の学術雑誌等が配架されており、これらの資料や図書等はどなたでもご覧いただくことができます。

平成29年度からは、これまで閉館していた土曜日・日曜日にも開館しています。また、府民の皆様には、これまでからご利用いただいていた図書館所蔵資料の閲覧及び複写に加え、一般図書の貸出サービスもご利用いただけるようになりました。

◇開館時間：平日 9:00～21:00

土日 9:00～17:00

※毎月第2水曜日、祝日法による休日、年末年始、蔵書整理期間など利用できない日があります。



カウンター



閲覧室

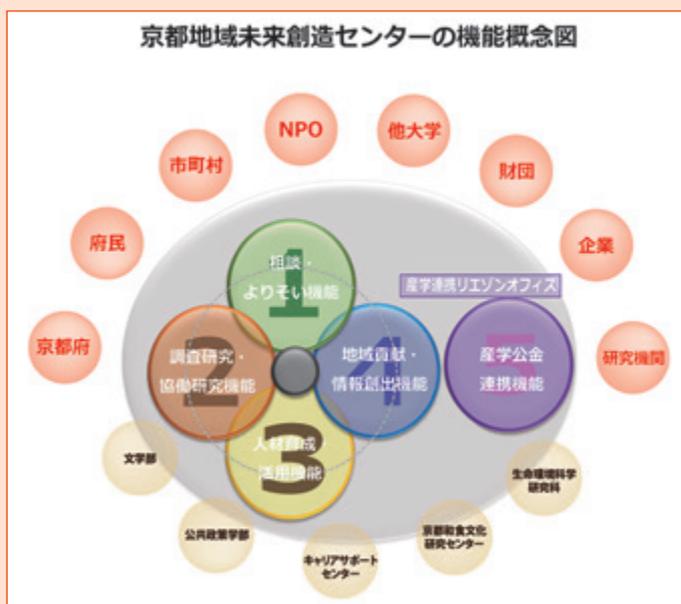
トピックス

地域連携・地域貢献

■「京都地域未来創造センター」(Kyoto Institute for Regional Prospects : KIRP (カープ))
の設立

平成29年4月、京都府立大学の地域貢献・地域連携・産学公連携の各機能を強化すべく、地域連携センターと京都政策研究センターが統合し「京都地域未来創造センター」(Kyoto Institute for Regional Prospects:KIRP (カープ))として新たなスタートを切りました。同センターは、大学の「知」を生かし、地域の未来を創るための拠点として、地域、企業、自治体などから本学への各種問い合わせ、調査研究の依頼などをワンストップでお受けする窓口となります。

また、同センター内には、従来の産学連携部門の機能を強化し、企業と大学の研究活動などをつなぐ「産学連携リエゾンオフィス」も設置しました。同オフィスでは、専門知識を持った職員を配置して、技術開発から共同研究のコーディネート、そして、契約事務から知的財産の管理まで、研究活動など一体的にサポートしていきます。



7月8日には、同センターの設立を記念し、京都地域未来創造センター設立記念シンポジウム「京都における地域の未来を拓く大学の役割」を開催しました。

日本学術会議会長の大西隆先生による基調講演の後、「京都地域未来創造センターが諸分野で果たす役割への期待」をテーマにパネルディスカッションを行い、それぞれのお立場から見た未来の時間軸の長さや京都地域未来創造センターに期待する役割や機能などについてお話し頂きました。

～京都地域未来創造センター設立記念シンポジウムの概要～

◇基調講演

『今後の科学技術の進展と地域社会－大学は地域との協働でいかに役割を果たすべきか』

大西 隆 氏 (日本学術会議会長、豊橋技術科学大学学長、東京大学名誉教授)

◇パネルディスカッション

『京都地域未来創造センターが諸分野で果たす役割への期待』

安部 孝幸 氏 (株式会社京都銀行 公務・地域連携部 次長)

塩見 直紀 氏 (半農半X研究所 所長、福知山公立大学 准教授)

肥前 洋一 氏 (高知工科大学教授 経済・マネジメント副学群長、フューチャー・デザイン研究センター長)

大西 隆 氏 (日本学術会議会長、豊橋技術科学大学学長、東京大学名誉教授)



基調講演



パネルディスカッション

■「京都経済同友会と包括連携協定締結」

平成29年3月に府立大学と京都経済同友会は包括連携協定を締結し、連携・協力して地域経済の振興や教育・研究の活性化などを図ることとなりました。

府立大学では、これまで京都府内の地域課題を解決する調査・研究や政策提言、課題解決型学習などによる人材育成や地域貢献活動を展開してきました。

一方、京都経済同友会では、府北部地域の振興策をはじめ観光、交通、景観について政策提言を重ねてこられました。

今後、府立大学は京都府における知の拠点として、京都経済同友会の政策提言活動に協力するとともに、産学連携のネットワークを構築し、研究・教育を推進します。また、京都経済同友会は、府立大学の協力を得て、京都府北部の地域経済を支える人材の確保・育成策について、これまで以上に積極的に検討・提言していかれます。



■「京田辺市と連携協力に関する覚書締結」

平成29年7月に府立大学と京田辺市は市史編さん等の連携協力に関する覚書を締結しました。

府立大学（文学部歴史学科）では、平成26年度から京田辺市教育委員会と連携して、歴史資料調査を実施し、市民向け成果講演会や市民ボランティアとの資料整理を行ってきました。今年、京田辺市が市政施行20周年を機に、新たに市史の編さんに取り組むに当たり、府内の多くの市町村史の編さんに携わってきた府立大学が協力することとなりました。

この覚書の締結により、京田辺市と文学部歴史学科が協力し、学生・院生も参加し現地調査等を進める予定です。



■地域創生COC+教育プログラム

南丹市美山町にて茅葺屋根の魅力を知る！ 「地域創生フィールド演習」が本格始動

平成28年度からスタートした「地域創生COC+教育プログラム」では、京都府中・北部の自然や文化を活か



茅葺屋根の葺き替え現場

して様々な生業を営んでおられる「地（知）の案内人」を訪ねて学ぶ「地域創生フィールド演習」が今年度から本格的に始まりました。平成29年6月2日～4日にかけて、南丹市美山町にあるニシオサプライズ株式会社にて第1番目となる演習が行われました。茅葺職人でありながら一棟貸し宿のオーナーを務める「地（知）の案内人」の西尾晴夫さんの所で、そのコンセプトと技、これからの展望を学び、実際に茅葺屋根の施工現場に同行しました。演習に参加した2名の学生は「西尾社長の人柄や地域の方々の生き方などから、茅葺屋根の保全活用だけでなく、これからの自分たちの生き方についても深く考える機会となった。また、自然の豊かさに感謝し、先代から受け継がれてきた歴史や文化、伝統を大切にするとということ、そして自分の地域に対するリスペクトこそが、「地域創生を形づくる」ということを学んだ」と感想を述べています。

“与謝野町ひまわりフェスティバル”に参加

「京都の地域創生」の受講者を対象として、平成29年8月9日に社会福祉法人よさのうみ福祉会リフレかの里にて、1日だけの模擬版の「地域創生フィールド演習」を行いました。「地（知）の案内人」の藤原さゆりさんの案内で、開催中の“与謝野町ひまわりフェスティバル”にスタッフとして参加した他、地中海トマトの収穫や出荷作業の手伝いをしました。「田んぼをバックにした壮観なひまわり畑に、すっかりリフレッシュされた」という一方、台風による雨ではじけて出荷できないトマトの現状を見て、「取れたてのトマトは美味しいのに、売り物にならないトマトがたくさんあることを知って驚いた」など、演習に参加した11名の学生はそれぞれの視点から貴重な体験をしました。



ひまわりフェスティバルにて



地中海トマトの収穫の様子

公開講座・生涯学習

公開講座「桜楓講座（春の部）」を開催

平成29年度公開講座「桜楓講座（春の部）」を6月10日と24日に開催し、各回とも130人をこえる方に受講いただきました。

10日は生命環境科学研究科の塚本康浩教授の講演「ダチョウに魅せられて」。ダチョウの卵から、優れた抗体を低コストで大量に作り出し、インフルエンザやMERSといった世界的な感染症から、花粉症、アトピーなどの身近な病気まで、さまざまな病気の治療や予防法を開発する研究をされています。講座では、実際の研究の苦労や成果について、映像を多数交えて紹介され、ダチョウ抗体の可能性を感じました。

24日は文学部の井上直樹准教授の講演「平安京での海外使節

のおもてなし～古代日本・渤海関係と鴻臚館」。渤海は、現在の中国東北方から朝鮮半島にあった国です。平安時代に、渤海の外交使節団が日本海を渡って京都に到着した際には、現在の千本七条にあった鴻臚館で、天皇との謁見や官僚たちとの宴などが行われました。さまざまなおもてなしの実態やそこで繰り広げられた日本と渤海の文化交流について解説があり、現代にも通じるような国際関係や使節団と役人たちのやりとりが活き活きと伝わってきました。



ちょっぴり非日常を学び・楽しむ演習林野外セミナーを開催

平成29年度演習林野外セミナー 高校生のための「大学の森・森林科学 野外実習コース」を7月23日に大野演習林で開催しました。

毎年、オープンキャンパスの関連行事として、地域貢献としての目的を掲げつつ、森林科学科の実習を模擬体験してもらうことも目的の一つとしています。

「身近に感じよう!!森林の涼・木竹材・大学生」をテーマにした体験プログラムを考えたところ、当日は、29名（うち一般の方2名）が参加し、森林科学科教員とともに大野演習林に大学バスで赴き、そこに演習林職員と本学の学生森林ボランティアサークル「森なかま」も加わり、総勢53名で次の体験プログラムを実施しました。

◆森林散策と樹木観察（森林の涼）

森林科学科教員が演習林の渓流を中心に涼を感じながら森林を散策し森の生態を解説



◆製材及び木工体験（木竹材・大学生）

森なかまが身近な木材の製造過程を説明し、丸太から板にした

り木材でペン立てやコースターを作るのを手伝いながら交流

◆竹材利用体験（木竹材）

演習林職員が利用のPRとして、竹で作った器、箸及び流しそうめん台を提供し、涼つながりのそうめんを味わいながら交流



今後とも秋も含めた年2回のセミナーは、幅広い世代の参加を呼びかけ、森林科学科の教育・研究の内容を知っていただく機会としたいと考えております。

このような理解のもと、これまでの本セミナー参加者で、本学森林科学で勉学に励んでいる学生もたくさんおります。今回のセミナー参加者が、本学の多くのことに興味を持ち、未来につなげてくれる学生として再会できることを心から願う次第です。



農場ユースカルチャーデー「小学生コース」を開催

平成29年度の農場ユースカルチャーデー「小学生コース」を8月4日に開催しました。ユースカルチャーデーの「ユース」は「University」と「You」。「Culture」と合わせることで、大学や農業に親しみを持ち、自らを高めてもらおうとの願いを込めた言葉です。

今回は小学生26人と保護者16人、計42人が参加され、まずは開会式。挨拶に立った農場長の板井先生はピカチュウのTシャツで登場し、初対面で少し緊張気味の子どもたちの心を和ませました。

開会式の後、午前中は、まず農場を見学した後、ミニトマト、キュウリ、なすなど野菜の観察と収穫。ミニトマトを「甘くておいしい」と試食する子ども姿に「普段トマト類は口にしないのに」という保護者の声も聞かれました。

午後は、まずひまわりの植え付け作業。子どもたち自ら鉢への土入れ、植え付け、水やりと楽しそうに作業を行っていました。



収穫（ミニトマト）

次に、果樹園でリンゴ、梨、桃などの観察をした後、デラウエアの収穫。持って帰ってもらうのは一人2房としましたが、その場での試食はOKということで、皆さん甘い果実を口にして大好評でした。

最後は、植物の色について実験、観察。表が緑色で裏が紫色のサツマイモの葉から抽出した黒い液体を薬品で一瞬で元の2色に分離すると、その変化に驚きの声。子どもたちにも赤タマネギの皮を顕微鏡で観察してもらい、アンケートでも実験が一番楽しかったという声も多くありました。



実験

暑い1日でしたが、収穫した野菜やブドウ、ひまわりの鉢などたくさんの荷物を持って帰路につく皆さんの顔には笑顔も多く、また来年も参加したいという声が大多数で、大好評のうちに終了しました。

国際交流

京都市立大学国際センターの開設

平成29年7月に国際化を推進する学内の総合窓口として「京都市立大学国際センター」を開設しました。センター長は公共政策学部川瀬教授にご就任いただき、施設は教養教育共同化施設（稲盛記念会館）の事務室内に設けています。

今後、同センターでは、留学生の受入支援、日本人学生の海外留学の支援、国際学術交流の推進等の取組などを順次実施していく予定であり、センター設置にあわせて、専任職員を配置して、新たに留学生の生活・就職相談や日本人学生の海外留学相談等を開始しました。



学生相談・図書閲覧コーナー

留学生の受入支援については、留学生の生活・就職相談とともに、日本語教育「アカデミック・ライティング講座」などを行うとともに、京都市の京（みやこ）グローバル大学促進事業も活用し、海外協定先との交換留学などの拡充を進めることとしております。

一方、日本人学生の海外留学の支援については、センター内に海外留学に関する相談や資料閲覧スペースを設けるとともに、府立大学の海外留学プログラムの拡充に向けた取組などを進めているところです。

また、国際学術交流の推進については、9月時点で、海外の20大学（13か国）と国際学術交流協定を締結し、教員や学生の派遣・受入、共同研究などの取組を行っているところですが、更にこれらの交流を深めるとともに、新たな大学との交流や連携を進めることで、本学の教育・研究活動を推進していきます。

東華大学、漢城大学校、フィリピン大学と学術交流協定を締結

平成29年に、京都市立大学が新たに学術交流協定を締結した海外の3つの大学についてご紹介します。

まず3月に中国の東華大学と協定を締結しました。東華大学は、国家「211プロジェクト」により全国重点大学（100校）の一つに指定された総合大学で、留学生教育にも力を入れている大学です。今後はこの交流協定にもとづいて、両大学とも学部生・大学院生を受け入れること、教員の相互訪問の機会を設けることなどによって、学生交流・学術交流を進めていく予定です。2017年度は既に、同大学から4名の留学生を受入予定であり、同大学の短期中国語学プログラム（夏季）への本学学生の派遣も実施しています。



東華大学との交流

7月には韓国の漢城大学校と協定を締結し、同大学校にて調印式が行われました。漢城大学校はソウル特別市にある中規模の私立大学で、「産学極力先導大学校」として韓国で注目されています。本学文学部と漢城大学校人文大学歴史文化学部は2015年11月に学部間の学術交流協定を締結し学術交流を進めてきましたが、この度、大学間の学術交流協定として新たに締結しました。これにより、漢城大学校主催の短期韓国語研修プログラムへの参加機会が本学全学部の学生に開かれ、本学における教育研究の国際化の進展や、全学体制で推進する「国際京都学」の発展に大きく寄与することが期待されます。

同じく7月にはフィリピン大学ロスバニョス校と協定を締結し、本学にて調印式を行いました。フィリピン大学は1908年に設立されたフィリピン共和国を代表する国立大学です。教員約4,000名、学生約53,000名を有するフィリピンにおける最高ランクの大学であり、法学、医学、政治学、社会科学、公衆衛生、自然科学、農学、人文科学の高等教育を提供しています。ロスバニョス校は同大学を構成する7つの構成校のひとつであり、農学、生命科学、理学に関する高等教育を提供しています。教員約990名、学生約13,700名を有しており、キャンパス内に国際稲研究所、ASEAN生物多様性センター、世界アグロフォレストリーセンター等多くの国際研究センターを持ち、農学系の国際研究拠点として高く評価されています。これまで同校と本学生命環境科学研究科は熱帯における水田土壌肥沃度の長期的変動に関する国際共同研究を行ってきましたが、協定締結により今後両大学がますます友好を深め、学術交流・学生交流を進めていくことが期待されます。



漢城大学校にて



フィリピン大学 締結式

国際研究センターを持ち、農学系の国際研究拠点として高く評価されています。これまで同校と本学生命環境科学研究科は熱帯における水田土壌肥沃度の長期的変動に関する国際共同研究を行ってきましたが、協定締結により今後両大学がますます友好を深め、学術交流・学生交流を進めていくことが期待されます。

各学部・研究科の取り組み

文学部

指定文化財になった舞鶴幼稚園資料の調査

歴史学科 東 昇 准教授

文学部歴史学科では、2013年より現在まで5年間にわたって、舞鶴市においてACTRの調査を継続しています。古地図や街道、石造物をはじめ、堂奥・多門院・和田地区の祭礼・聞き取り調査を実施しました。現在も文化情報学ゼミは舞鶴地方史研究会のみなさんと一緒に、各地域に現存する古文書の整理作業を続けています。

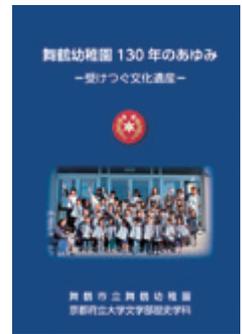
文化情報学ゼミでは、近世・近代の歴史資料を調査・分析し、それらを展示・図録・WEBなどで公開し、活用を考えていくことを学んでいます。私自身が博物館学芸員を経験したため、現場の実践的な方法が身につくように指導しています。



調査風景

ゼミで長期間取り組んだものとして、舞鶴市立舞鶴幼稚園資料があります。幼稚園は明治17年(1884)に開園し今年で133周年、京都府下では

- 現存する幼稚園として最古、全国6番目に古い歴史を持っています。幼稚園には、明治～昭和の園児教材や作品を中心とする資料があり、その整理を行いました。2014年11月の130周年には記念事業として、幼稚園・同窓会とともに、記念誌『舞鶴幼稚園130年のあゆみー受け継ぐ文化遺産ー』を編集・刊行しました。同時に記念講演を行い、ゼミ生は記念展示の準備、解説をしました。また2016年3月には「京都府立大学文化遺産叢書」第11集として『舞鶴地域の文化遺産と活用』を刊行し、幼稚園資料の目録・解題・画像などを掲載し、全体像をあきらかにしています。そのうち889点が、2017年1月舞鶴市指定文化財となりました。幼稚園の所蔵資料が文化財になるのは、全国的にみても大変珍しいことです。今後、舞鶴幼稚園は、他園との統合や園舎の建て替えなどが予定されていますが、貴重な資料の保全や展示・公開など、引き続き協力していきたいと考えています。

『舞鶴幼稚園
130年のあゆみ』

公共政策学部

公共政策学部開設10周年を迎えて

公共政策学科 窪田 好男 教授

2008年度に開設された公共政策学部は今年で10周年を迎えました。学部開設以来、教育・研究に関わってきた者のひとりとして、うれしく思います。福祉社会をめざし、公共政策を拓くというキャッチ・コピーを掲げ、人材育成に注力してきました。多くの卒業生が京都府をはじめとする地方自治体や地域の金融機関等に進み、様々な分野で未来のリーダーとなり得る人材として活躍を始めています。

公共政策学は、学部の名称としてはまだまだ珍しいですが、日本公共政策学会という千人規模の全国的な学会もあり、新しい専門分野として成長を続けています。新しい専門分野では、教育内容の共通化と質保証が重要になりますが、そのため、日本公共政策学会では、「学士課程教育における公共政策学分野の参照基準」を策定し、2015年10月に発表しました。私も委員としてそれに関わり、同年6月に本学で開催された研究大会で行われた中間案の発表と議論では、司会を務めました。

公共政策学については、よい政策をつくり、それを

- 提言する学問だという理解が一般的と思いますが、それは公共政策学の一面にすぎません。ある政策分野でよい政策をつくるには、関連する専門分野の知識が必要なのは言うまでもないのですが、公共政策学は近年、問題解決志向を強める様々な専門分野の集合体ではありません。むしろ、その力点は、分野を超えて、どの政策分野にも使えるような、よりよい公共政策をつくる・産み出すような制度やツールを分析・開発し、人材を育成することにおかれています。

- 私自身の研究も、国や地方自治体の政策評価制度の研究のほか、政策教育に関して、ケースメソッドやゲームの導入を試みています。また、公共政策学と実務とが、相互に影響し合って改善・発展していくものであるという考えから、地方自治体の総合計画や地方創生の総合戦略等の各種計画の策定や評価、自治体評価制度の外部的評価など、様々な形で政策形成の実践に積極的に与えるようにしています。



研究大会の様子

生命環境科学研究科

タンパク質の動きや働きを考えて

応用生命科学専攻 生命物理化学研究室
織田 昌幸 准教授

タンパク質はアミノ酸からできています。20種類のアミノ酸が「ひも状」に並び、全体としてある特定の立体構造を形成するわけですが、この立体構造を、X線やNMRなどの最新解析技術を駆使して、原子レベルで決定できる時代です。医薬品分野では、このタンパク質の立体構造情報に基づき、例えばある結合を阻害出来れば薬になる、という発想で研究が進められます。ここで問題になるのが、タンパク質は溶液中で「動く」という問題です。相手分子と結合する際や、食品を分解するなどの機能を発揮する際には、タンパク質はその形を微妙に変えるのです。最先端の解析技術をもってしても、タンパク質の「静止画」は得られても、「動画」を得ることは、相変わらず難しいのです。我々は、この難題に取り組んでいます。もちろん既存の技術を駆使して、というか極めて泥臭いこと、例えば組み換え技術を駆使して出来るだけ多くの、とはいえミリグラム程度のタンパク質を精製することに時間をかけ、X線

やNMRで、まずは原子レベルでの「精密な静止画」を得ることを目指します。タンパク質の安定性や相手分子との結合力を、カロリメトリーなどを用いて解析します。さらにSPring-8という世界最高のエネルギーを誇る放射光施設を利用して、タンパク質1分子レベルでの動きの解析なども行います。タンパク質の動きがどの程度の大きさで、どの程度の時間軸で変化するのか、それらが相手との結合にどのように影響するのかを解析しています。「何の役に立つのですか？」という質問には、「医薬品の開発に貢献します」とか答えますが、実際には「生命の謎」に迫れる喜びを感じつつ、いわゆる基礎研究の大切さを実感しています。教員目線で申し上げると、日々の研究を通じて、学生諸君が研究の面白さを感じ、成長する姿に感動します。どこまで生命の謎に迫れるかは正直わかりませんが、毎日の研究を楽しみつつ、成果を着実に発表出来ればと思っています。



生命環境科学研究科

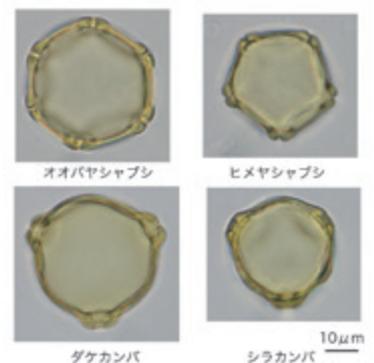
花粉研究とリンゴ

環境科学専攻 森林植生学研究室
高原 光 教授

私は40年近く、湿原などに長期間たまっている堆積物中の花粉の種類と量を調べて過去の環境変動を明らかにする研究を行ってきました。花粉を研究対象としていながら、実は、様々な植物の花粉症で、春には辛い思いをしています。国民のおよそ25%が花粉症患者と言われていています。ところで、皆さんの中に、ケーキやクッキーを食べると、しばらくして喉がいがらくなったりする方はいないでしょうか。これらの洋菓子にはアーモンドパウダーが入っていることがあり、バラ科果物アレルギーの人は、食べるとアレルギー反応を起こします。アーモンドはバラ科植物なのです。これは口腔アレルギー症候群といい、時には重篤なショックを起こすことがあります。このアレルギーは、シラカンバやヤシャブシ類などのカバノキ科花粉に含まれるアレルゲンのタンパクがバラ科果物にも含まれているため、カバノキ科樹木の花粉症の人にも起こります。北海道では、広く分布するシラカンバ花粉で起こるシラカンバ花粉症の患者が多いと言われていています。西日

本でも、宅地開発などの法面に痩せ地でも育つヤシャブシ類が植栽され、その花粉が花粉症を引き起こしています。

さて、バラ科果物アレルギーになると、リンゴ、イチゴ、桃などを食べられないのですが、様々な加工品にもリンゴが入っていて、アレルギーを起こしてしまいます。例えば、マヨネーズやキムチにはリンゴ果汁が入っているものがあります。ドレッシングやカレーなど加工されたものも、外食の際には注意が必要です。近年、飲食業界では、事前にアレルギーの有無を確認することが多くなっていますが、果物そのものには注意されるものの、加工されたものに何が入っているかまで、チェックされてはいないように感じます。上記のように、このアレルギーであることに気がついていない方もたくさんおられるのではないのでしょうか。



受賞情報

生命環境科学研究科
応用生命科学専攻／生命環境学部

○土田 さやか 特任講師 (動物機能学研究室)

「朝日21関西スクエア賞」受賞

研究のユニークさと学術的意義と希少生物保全に対する社会貢献が評価され、「朝日21関西スクエア賞」(主催:朝日新聞大阪本社)を受賞しました。(受賞時:特任助教)

○博士前期課程1回生

佐々木 沙夜香 (機能分子合成化学研究室)

創薬談話会2017in加賀「優秀ポスター賞」

「ベストディスカッション賞」受賞

創薬談話会2017in加賀(主催:日本薬学会医薬科学部会)において、「新規転位反応を用いたフェナレノン形成機構の解明」の発表により、「優秀ポスター賞」及び「ベストディスカッション賞」を受賞しました。

○博士前期課程2回生

香月 尚樹 (機能分子合成化学研究室)

創薬談話会2017in加賀「最優秀ポスター賞」受賞

創薬談話会2017in加賀(主催:日本薬学会医薬科学部会)において、「Dendrochrysaneneの全合成」の発表により、「最優秀ポスター賞」を受賞しました。

生命環境科学研究科
環境科学専攻／生命環境学部

○河西 立雄 准教授 (建築意匠学研究室)

建築コンクール「優秀賞」受賞

第8回建築コンクール(主催:(公社)愛知建築士会名古屋北支部)において、「音とサクラの家」により、「優秀賞」を受賞しました。

○宮藤 久士 教授 (森林資源循環学研究室) 他2名共同受賞

(公社)日本木材加工技術協会「市川賞」受賞

「イオン液体を用いた木材の難燃化」の研究業績により、(公社)日本木材加工技術協会第16回市川賞を受賞しました。

○平成29年3月博士前期課程修了

小仲 美穂 (建築環境工学研究室)

日本建築学会大会「若手優秀発表賞」受賞

2016年度日本建築学会大会において、「単身者住宅の室内環境に関する調査研究(その2)ー京都市内の学生を対象としたエネルギー消費量・住まい方の調査結果ー」の発表により、「若手優秀発表賞」を受賞しました。(受賞時:博士前期課程2回生)

○平成29年3月博士前期課程修了

Wong-Sze Mun (史的住環境学研究室)

日本建築学会大会「若手優秀発表賞」受賞

2016年度日本建築学会大会において、「マレーシア・ペナン島ジョージタウン市のKelly Mapとポストカードについて」の発表により、「若手優秀発表賞」を受賞しました。(受賞時:博士前期課程2回生)

○平成29年3月博士前期課程修了

久山 貴暉 (生体材料物性学研究室)

日本木材学会大会「優秀ポスター賞」受賞

第67回日本木材学会福岡大会において、「京都府産木材の利用による京都府内での経済波及効果に及ぼす流通シナリオの影響」の発表により、「優秀ポスター賞」を受賞しました。(受賞時:博士前期課程2回生)

○博士前期課程2回生

中川 拓真 (樹木保全学研究室)

日本森林学会大会「学生ポスター賞」受賞

第128回日本森林学会大会において、「スギ精英樹における水分生理特性の系統間差異」の発表により、「学生ポスター賞」を受賞しました。(受賞時:博士前期課程1回生)

○博士後期課程1回生

松本 綾乃 (ランドスケープ学研究室)

日本造園学会全国大会「ベストペーパー賞」受賞

平成29年度日本造園学会全国大会において、「建築物に付随する小規模緑化空間の環境特性と鳥類生息の関係」の発表により、「ベストペーパー賞」を受賞しました。

○環境デザイン学科4回生 鍵井 太貴

博士前期課程2回生 太田 奨吾 (建築意匠学研究室)

マリントピアリゾート内観デザインコンテスト

「銀賞」受賞

マリントピアリゾート内観デザインコンテスト(主催:(一社)産学連携人材育成協会)において、「紋紙による光の効果を主題としたインテリアデザイン提案「織りなす灯」」の作品発表により、「銀賞」を受賞しました。



ニューフェース

公共政策学部
福祉社会学科

講師 やまぐち けいこ 山口 敬子

〈主な研究領域〉
児童家庭福祉・社会的養護



何らかの理由で実家庭で生活できない子どもに代替的養育を提供する社会的養護の一つに、里親委託があります。近年の社会的養護では、できる限り家庭に近い環境において特定の他者との親密で継続的なかわりを保障することが重要であるということで、里親委託が重視されていますが、里親委託をささえる体制づくりも重要な課題です。子どもの委託前から委託終了後まで継続的にかかわることのできる支援体制をつくるために、どのようなことが必要なのか、研究を進めていきたいと思っています。

生命環境科学研究科
応用生命科学専攻

講師 たしろ ゆり 田代 有里

〈主な研究領域〉
食品レオロジー・
生体高分子の溶液物性

食品のレオロジーは、食品素材の物性や加工特性あるいは食の豊かさの表現に直接関係する分野です。今日では、食品の栄養と安全性に並んで、口あたりや喉ごしといった物性的機能が食の課題になっています。高機能食品や高齢者等向け食品に今後ますます重要になる食品物性のうち、レオロジー的性質について、溶液物性と粘弾性の視点から、食品成分の分子構造と食品素材の物性発現機構を解明することを目指しています。

イベント情報

平成29年度桜楓講座（秋の部）〈京都府公立大学法人連続講座〉

最近のトピックスを交えながら、本学教員がそれぞれの専門分野についてわかりやすく講義を行います。

Cコース 11月11日（土） 10:00～12:00

「日本の水、世界からの水、京都の水、“私”からの水」

講師：生命環境科学研究科教授 細矢 憲

Dコース 11月23日（木・祝） 10:00～12:00

「“世界で最も幸福な国”ノルウェーの子どもたち」

講師：公共政策学部教授 上掛 利博

場 所 京都府立大学
稲盛記念会館1階 102講義室

受 講 料 無料（申込制）

募集期間 Cコース 11月7日（火）まで
Dコース 11月17日（金）まで

申 込 先 〒606-8522（住所記入不要）
京都府立大学 京都地域未来創造センター
FAX：075-703-5319
E-mail：kirpinfo@kpu.ac.jp